



印刷情報メディア産業  
労働組合連合会（印刷  
労連）  
副中央書記長

古賀 初代

2017年10月から  
約2カ月間にわたり、  
全10講の「全労生ユニ  
オン・カレッジ」を受  
講させていただきまし  
た。

私は2017年10月  
から、印刷情報メディ  
ア産業労働組合連合会  
（略称「印刷労連」）の

専従役員となり、今回  
専従として必要な知識  
を身に付けることを目  
的として受講させてい  
ただきました。

それまで単組での組  
合役員として、会社と  
の労使交渉、折衝も経  
験してきましたが、や  
はり産別の先輩方の経

験、知識と見識にはい  
りませんでした。

## 全労生ユニオン・カレッジを受講して

義が今後の活動に役立  
つ内容であり、毎回の  
受講がたいへん充実し  
た時間となりました。  
また、他産別の方との  
交流や意見交換もで  
き、同じ立場での苦勞  
や違う産業間で抱える  
課題の共有等もでき、  
たいへん有意義な時間

中でも「法の視点か  
らみた労働組合の意義  
と役割」の講義では、  
安心して自信と誇りを  
もって活動すべき、そ  
して法的な視点を持ち  
つつ、行動することが  
大事であるというお話  
に、専従役員としてあ  
らためて責任を感じ、

印刷労連においては  
中小組織が中心であ  
り、女性の比率が少な  
いのも現状です。印刷  
産業を魅力ある産業に  
するため、そして男女  
ともに働きやすい環境  
整備に向けて、この講  
義で得たものを今後の  
活動に生かしていきたい  
と思います。

働き方改革関  
連法が成立し、

つも勉強させられるこ  
とが多く、自分も先輩  
方に少しでも近づきた  
い、さらに知識と見識  
を広げ、これからの労  
働運動や組合活動、印  
刷産業発展に少しでも  
貢献していきたい、と  
の思いもありました。

講義の内容は、生産  
性運動や労働運動の歴  
史からはじまり、法律  
からみた労働組合の意  
義、経営分析、賃金の  
仕組み、さらにデータ  
でみる生産性など、様  
々な視点から労働組合  
に役立つ知識を得るこ  
とができました。

労働組合の存在意義に  
ついては再認識させら  
れました。

今後ますます労使協議  
が重要となり、労働組  
合が担う役割はさらに  
大きくなります。産別  
専従役員として今後も  
ユニオン・カレッジで  
習得した知識を生か  
し、多くの諸問題、課  
題への対応に積極的  
に取り組んでまいりま  
す。

実際に、すべての講

とができました。

になりました。

す。